

エコ通勤集中取組日の結果について

1 目的

「おかざきスマートムーブアクション 2024」の取組の一つとして、年末で慌ただしく交通事故も多い時期に公共交通機関を使ったゆとりのある行動を啓発するとともに、アンケートによる効果検証を行うことで、今後の公共交通施策及び利用促進策に反映する。

2 実施内容

実施期間	【エコ通勤強化月間】 令和6年12月2日（月）から12月27日（金）まで 【集中取組日】 ① 12月4日（水）（アンケート回答者：239名） ② 12月20日（金）（アンケート回答者：148名） ※普段自動車通勤の岡崎市職員については、原則、公共交通を利用して出勤することを促す。
集中取組日の参加登録数	企業・団体での参加：岡崎市（約4,000人）ほか3団体 個人での参加：37人
アンケート回答	集中取組日の通勤方法、通勤時間、所感等について関するアンケートを実施
エコ通勤協力証の付与	アンケート回答者に対し、岡崎駅周辺の「出会いの岡崎 駅ナカ横丁」、「駅西小町」で特典を受けられるエコ通勤協力証を付与



3 アンケート結果

アンケート回答者数：387人（集中取組日2日間の合計）

年代	20代：60人 30代：69人 40代：106人 50代：121人 60代：29人 70代以上：1人 無回答：1人
居住地	岡崎市内：306人 岡崎市外：81人
勤務地	岡崎市内：376人 岡崎市外：11人
普段の通勤方法	車、バイク：248人 公共交通機関：57人 徒歩、自転車：82人

問 集中取組日（12月4日、20日）にエコ通勤を実施できたか？

はい	いいえ
243人（62.8%）	144人（37.2%）

※「はい」と回答した人の内112人が普段の通勤方法が車、バイク

【実施した感想】

- ・前にも電車で通勤したことはあったが、よく考えると自家用車と所要時間はかわらず徒歩も気持ちよく、電車通勤もありかなと思った。
- ・電車と徒歩で通勤したが、全く苦にならなかった。
- ・楽しく通勤できた。雪が降った時などのことも考えて、車ではない通勤方法ができ良かった
- ・普段利用しない鉄道を使用することで、駅の周辺状況を歩きながら見ることができ、小さな気づきがあった。
- ・勤務先によっては、実施が難しいと思った。
- ・電車やバスなどの本数があれば実施しやすいが、本数が少なく、料金が高いため、地域的に難しい。

【実施できなかった理由】

- ・通勤時や帰宅時に子どもの送迎や買物などをする必要があるため。
- ・公共交通や自転車、徒歩での出勤は疲れるため。

問 今回のエコ通勤の取組や啓発は、普段の通勤方法を見直すきっかけに繋がったか？

はい	いいえ
269 人 (69.5%)	118 人 (30.5%)

【見直すきっかけにならない理由】

- ・自宅や職場の位置によっては無理がある（公共交通機関までが遠い）。
- ・子どもの保育園の送迎があるため、車以外の通勤方法は考えられない。

問 今後エコ通勤を続けていこう（はじめてみよう）と思うか？

はい	いいえ
270 人 (69.8%)	117 人 (30.2%)

【思わない理由】

- ・時間がかかるため。
- ・自宅の周りに公共交通機関がないため。
- ・バスの本数が少ないため。
- ・バスが時間通りに来なかったり、遅延するため。

問 岡崎市の公共交通や環境施策についての意見

- ・歩きたくなるまちづくりの取組みができ、行政、市民や企業の全体で行えるといいと思う。
- ・公共交通を利用することで環境にも健康にも良いと思われるので引き続き啓発していただきたい。
- ・JR 岡崎駅と東岡崎駅のアクセス向上（移動時間短縮・渋滞緩和）を期待します。
- ・昔に比べ、バスの本数が減っていたり、乗継ぎが多くなり不便になっている。
- ・バスと鉄道、バスとバスなど、乗換えとなると時間的なロスが多いので、忙しい朝に公共交通機関での通勤は難しいと思う。

4 アンケート結果等から

- ・「今回のエコ通勤の取組や啓発は、普段の通勤方法を見直すきっかけに繋がった。」という回答が半数を超えていたため、一定の効果を上げることができたと考えられる。
- ・一方で回答者の約3分の1は「今後エコ通勤を続けていこう（はじめてみよう）と思わない」との回答であった。理由としては、地理的な要因（自宅又は勤務地の近辺に公共交通機関がない、車より時間がかかる）、生活スタイルによる要因（子どもの送り迎えに車が必須）、意識的な要因（公共交通機関での通勤は疲れる）があった。
- ・地理的な要因と生活スタイルによる要因については、早期での解決は困難だが、意識的な要因については、利用促進事業（公共交通機関の利便性をアピールする等）を行うことによって、少しずつ利用者の意識を変えていくことが可能であると考えられる。
- ・今回はマルシェや飲食店との連携を図ったが、準備不足や周知不足もあり少数の参加に留まった。
- ・こうした取組は、市の施策や公共交通の利用、脱炭素化に対する無関心層にアピールすることが重要であることから、新たな民間事業者との連携を図るなど、試行錯誤しながら継続していく必要がある。